岡山市水道記念館

F-1

・岡山市の水道は、明治38年（1905）7月わが国で8番目に誕生しました。その後、現在まで1日として休むことなく、毎日水を送りつづけています。岡山市水道記念館は、水道の通水80周年を記念して通水を始めた当時の送水ポンプ室を改造して開設されました。
（岡山市水道記念館パンフレットより）

神宮寺山古墳
（国指定文化財・史跡）

E-3

・津山線と旭川堤防の間、北方の平地にある小丘は、長さ150mにおよぶ前方後円墳であり、北方の神宮寺山古墳と呼ばれています。この古墳は市街地にほぼ全形を残す古墳として珍しい存在です。前方部は墓地になり、後円部墳頂には天計神社が祀られ、南側すそは御野小学校で多少削られていますが、かつて5世紀の前半岡山平野へ君臨したであろう王者の墓の堂々とした姿を残しています。多数の刀や剣の外は鍬先、鎌、手鎌、鋸、やりがんな、のみ、きり、手斧、斧などの農工具が多量に副葬されていました。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

伊勢神社

E-5

・天照大御神が、現在の伊勢神宮（三重県伊勢市）の地に遷され、祀られる前、89年間にわたり諸国を巡りました。そのとき、吉備国名方濱宮に4年間御鎮座になったので、この地に伊勢神宮の元宮として祀られています。備前で最も古い社歴の神社です。平安時代には「延喜式神名帳」（西暦927年撰上）に記載されたいわゆる「式内社」の一社として栄え、室町時代には備前岡山の総氏神として篤く崇拝されました。その後も、宇喜多氏や池田氏より尊崇されてきました。
（町誌　わが町中出石〔岡山市出石町・中出石町内会町誌編集部、平成9年3月〕より）

出石

E-5

・一城建設のために必要とされた材木は、城の大小もありますが3千石（石とは一尺角材を10尺の長さにしたもの）～1万石の必要があったとされています。城下町建設で一民家の材木費も10石～100石位必要があったと推定されます。その結果、旭川に川上より下ってくる筏は大変な量となり、河川活動が盛んになりました。その活動の第一は河川の改修に始まり、商品流通の増大化のため、川舟の発着場の整備、波止建設、護岸工事が急ピッチに始められました。
同じ時期に、石組みの突堤で波止め、川舟の発着を容易にする「出石」が建設されたと考えられています。現在、この「出石」が石組突堤の波止設備として七つ残っています（一つは欠損して形はない）。
（町誌　わが町中出石〔岡山市出石町・中出石町内会町誌編集部、平成9年3月〕より）

Aルート《城下地下広場》

岡山シンフォニーホール

E-7

・音楽芸術を最高の環境で楽しむことができる、2,001名収容の大ホールと、イベントホール、和風ホール及び2つのスタジオがあります。
2,001席の客席は、優れた臨場感の3層バルコニー型式。温かみのある木目調の豊かな雰囲気の中で、ゆったりと鑑賞できます。
優れた音響性能でクラシックはもちろんのこと、ポピュラー、邦楽など各種のコンサートに利用できます。さらに、全国大会、会議、学会などのコンベンション等、様々な用途に対応できる文化施設です。
（岡山シンフォニーホールHPより）

岡山市立オリエント美術館

E-6

・シリア、イラン、イラクなどから出土した古代オリエントの土器、陶器、装飾品、染色品など約3,000点を系統的に収集し、時代、地域、種類別に分類して常設展示しています。展示品には時代背景や興味深いエピソードをまじえ、内容に合わせた簡単なクイズも用意されており、楽しみながら見ることができます。中にはハンムラビ法典のレプリカなど意外な展示品も揃っています。
（TRAVEL MINI GUIDE BOOK 楽しみいろいろ てがるに岡山〔岡山市観光物産課発行、平成8年8月〕より）

岡山神社

E-6

・かつて、岡山神社は酒折宮と呼ばれていた神社です。社伝によると貞観年中（859～77）の創建です。その社僧としての天台宗平福院・実成院・福聚院の三院がありました。神社と寺は、昔、現在の岡山城のところにあって、岡山大明神と呼ばれていましたが、宇喜多家が岡山築城のさい、現存地に移し本殿を建てました。小早川秀秋が拝殿などをつくり（備陽国誌）、江戸期に社名は酒下・阪折・酒折などと書かれていました（温故秘録）。平福院は、宇喜多直家の廟所でしたが、寺は維新後姿を消してしまいました。神社は、昭和20年（1945）の空襲で社殿を焼失し、随神門だけが残りました。
（岡山市の地名〔岡山市地名研究会著、岡山市発行〕より）

岡山県立美術館

E-6

・古くは室町時代の雪舟に始まり、剣豪宮本武蔵、文人画の大家浦上玉堂らの日本画、若くして単身渡米、のちにアメリカを代表する画家となった国吉康雄、日本抽象絵画の草分け坂田一男らの洋画など郷土を代表する作家の作品を展示しています。また、音楽、演劇、映画など幅ひろい催しがひらかれる音響効果のすぐれた212席のホールもあります。月曜日休館
（MIND CITY おかやま（パンフレット）〔岡山市観光物産課〕より）

土光敏夫先生記念苑

E-6

・岡山県天神山文化プラザの北側の細い路地を進むと木々に囲まれた広場に出ます。その一角に土光敏夫先生の功績を讃えた記念の像があります。これが土光敏夫先生記念苑と呼ばれる場所です。南側には、天神山をみることができます。

鶴見橋

E-6

・この橋は江戸時代にはありませんでしたが、後楽園が一般に公開されるに際して、長さ150m、幅3.6mの板橋が石関の岡山神社からかけられました。たびたびの洪水で流され、昭和5年に現在の橋にかけ替えられています。勾欄はかつてのおもかげを残したデザインとされています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

後楽園
（特別名勝）

E-6

・本園は、備前31万5千石の藩主池田綱政公が作事奉行津田永忠に命じ、貞享3年（1686）から14ヶ年の歳月をかけて、元禄13年（1700）に完成したもので、その面積約13万m²に及び、江戸初期を代表する大名庭園であります。本園の様式は、江戸初期に円熟した池泉回遊式の庭園で、園路に沿い回遊することによって移り変わる景色を眺める趣向になっております。又、操山、備前富士の借景を巧みにとり入れています。本園の最たる特徴は、明るい芝生に池の広々とした水面の景趣が展開し、築山、植え込み、亭舎などが風雅に配置され、それを縫う曲水、園路の優美な曲線を描き、瀬戸内の風土に調和した景観を構成していることです。この庭の名称は、菜園場、茶屋屋敷、またの名を岡山城の後に造られたことから、御後園、と呼ばれていましたが、この庭の造られた動機が、藩の政治をうまく治め、国が栄えてしかる後に楽しむという後楽の庭でいわゆる先憂後楽の精神に基づきて造られているところから明治4年「後楽園」と呼ばれるようになりました。明治17年池田家より岡山県に譲られ一般に公開されるようになりました。本園は貴重な文化遺産として「特別名勝」の指定を受けてその保存に当って指定を受けてその保存に当っていますが、日本三公園の一つとして、海外に誇り得る名園です。（現地解説板より）

鶴鳴館

F-6

・元は広間と言われ園内最大の建物で、現在の建物は、昭和25年岩国の吉川邸を移したものです。
（現地解説板）

延養亭

F-6

・園内第一の客殿で造庭と同時に建てられましたが戦災で焼失し昭和35年復元されました。田舎式寝殿造りです。この建物より眺める景色が園内で最も優れており本園の代表的景観となっています。
（現地解説板）

沢ノ池

F-6

・廻遊式庭園の中心をなす池泉で、元禄3年の絵図では現在の池の4分の1くらいの大きさですが、正徳2年の絵図には現在の池と同じ大きさに画いています。水面の広さ5反7畝（5,643m²）、周回185間（336m）、池には中の島、御野島、砂利島の三島がうかんでいます。池の護岸は間知石を積み、島は花崗岩の自然石を乱積にしています。沢の池と土橋を境にして水続きにヒョウタン池があります。このひさご形の池は遅れて寛保年間に造られたようです。
（岡山市史（社会編）〔岡山市史編集委員会編集、昭和43年9月10日〕より）

由加神社

F-6

・由加神社は、後楽園内六鎮守の一つで、東京小石川の池田家本邸にあったのを明治5年（1872）に遷座したものです。本殿、拝殿、絵馬殿・祭器庫まで完備していましたが、今は絵馬殿・祭器庫はありません。
（後楽園パンフレット〔岡山県後楽園事務所監修、郷田良太郎編集〕より）

千入の森

F-6

・新緑の萌立ち、秋の紅葉は特に美しいです。この楓林を千入の森と云います。
（現地解説板より）

久郷梅松顕彰碑

F-7

・岡山後楽園には、岡山にゆかりのある人々の詩歌句碑や顕彰碑が建設されています。
久郷梅松は岡山県の林業振興の功労者であり、昭和34年に顕彰碑が建設されました。

岡山県立博物館

F-6

・岡山県政100年記念して後楽園の外苑に建てられた博物館です。岡山県の歴史と文化を主題に美術工芸、考古、民俗、備前焼、刀剣など、原始から近世に至る移り変わりが一目瞭然です。
（TRAVEL MINI GUIDE BOOK 楽しみいろいろ てがるに岡山〔岡山市観光物産課発行、平成8年8月〕より）

天満宮

I-1

・菅原道真を祭神とするこの地の氏神で、矩形に劃した1,159坪（約3,825m²）の社地に東面して社殿が立っています。今在家の天満宮は吉備温故秘録に「五霊天神宮」と載せてあり、明治になって現在の社名に改めました。社殿は一間社流造亜鉛板葺の本殿と入母屋造の拝殿、切妻造の弊殿、三間一戸の随身門など、今在家一帯は天神様があるので落雷しないと昔から言われています。
（岡山市史、宗教・教育編〔岡山市史編集委員会編集・岡山市発行、昭和43年3月30日〕より）

Aルート《JR高島駅》

西手櫓

E-7

・西手櫓は旧内山下小学校になっているところにあります。宇喜多直家が旧岡山城を修築したときひろげた一郭ですが、その整備は池田利隆の入城した慶長8年（1603）ごろと言われています。寛永9年（1632）のお国替え後、家老土倉家の本邸でしたが、池田光政が寛文12年（1672）に引退したとき、土倉邸を現在の県庁のところに移してそのあとを隠居所にあてたということです。土倉氏のときの築庭かどうかわかりませんが中島のある庭園がのこっていて、そのそばに光政公御居間址と刻んだ石碑がたっています。西手櫓は慶長8年（1603）池田利隆が帯郭を整備したときの建築で、西手の石垣の上にある2階建てで、入母屋造り本瓦葺です。妻飾は黒のキツネ格子で、破風の拝みにヒレつきの三花懸魚がつられています。1階の西側の屋根には軒唐破風をみることが出来ます。西手の石垣は、当時中堀を望んでおり、この櫓も西面の防備に力を入れて建設されています。櫓の1階は武器や兵糧の置き場で、2階は畳敷の広間になり、東の窓を開けると天守閣のそびえる本丸の大景観が眺められ、又眼前には松風がさわやかに渡る林泉があります。空襲の被害を受けずに昔に変わらない雄姿を校庭の一角に見ることが出来ます。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

岡山城跡
（旧本丸跡）

F-7

・現存する岡山城跡は、戦国乱世の備前国を統一した宇喜多直家の子の秀家が天正18年（1590）から慶長2年（1597）にかけて築城した城郭を中心としてその後の城主の小早川秀秋・池田忠継の増改築を経て、寛永年間初期（1620年代）に完成したものです。完成時の岡山城は本丸を中心にして二之丸三之丸が南から西に広がる梯郭式の縄張でしたが、本丸と二之丸内屋敷の曲輪の一部を遺して市街地に埋没してしまっています。この説明板を設置している周りを石垣で固めた郭は二之丸内屋敷の曲輪の中心的な郭をなしていますが、絵図には櫓などの本格的な城郭建築物が描かれてなくどのように使われていたかは不明です。この郭は直家が元亀年間（1570～73）に築城した石山城の本丸の位置にあたると伝えられ、旧本丸跡と称されています。明治維新後、この地に池田家の祖廟が設けられていましたが、先年移転しました。
（現地解説板より）

岡山城石山門跡

F-7

・この櫓門は、戦前には国宝に指定されていましたが、岡山大空襲で天守閣などともに焼失してしまい、今は土台の石垣しか残っていません。かつては、この石垣の上から北側に、道路を跨いだ対面方石垣上にかけて、上屋が設けられていました。その地下に当たる、石垣に囲まれた部分が、通路となり、そこに門扉が設けられていました。上屋は渋蔵として使っていたことから、「渋蔵門」とも呼ばれ、正面11間（約22m）の規模がありました。江戸時代初めの小早川秀秋の頃、富山城（岡山市矢坂山）の廃城に際し、大手門をここに移築したものと伝えられています。付近は変貌が著しいのですが、この門の前面は、城の防御上から、今に伝えられた道や石垣壁の折れに示される枡形となっています。そのすぐ南には東西に内堀が広がり、渡れば二之丸の上級武士の屋敷街に連なっていました。一方、この門をくぐって内に入ると、北西には池田光政の隠居所ともなった西之丸（旧内山下小学校）、東には石山一体を経て、天守閣のある本丸方面に通じていました。なお、門の名である石山の中核部（旧NHKの東裏）は、天正19年（1591）頃に宇喜多秀家が現在の位置に本丸を移転する以前に、本丸があった場所です。
（現地解説板より）

対面所長屋門

F-7

・城下町の昔の姿をとどめるものに長屋門があります。長屋門は江戸時代の武家屋敷などで、門の左右に住宅を設け、屋根を共通にしたものです。田町の杉山家の門は後楽園で「古陶館」になっていて、岡山美術館の門は、もと電車筋の日銀の前あたりにあった「昇丸」（殿様の子供の名前）の門と呼んでいたものです。3千石ぐらいの武家屋敷の門です。この屋敷は明治になると岡山区役所に貸し、その後商法会議所が入っていました。現在の長屋門は、北の隅に住んでいた家老池田長準の屋敷の門を美術館の前に移したものです。この付近は城としては二之丸と呼び対面所がここにあって、よそからきた使節の宿泊所であり会談所でもありました。この門は、屋根を入母屋造妻入とした本瓦葺の建物で、下半分をナマコカベにして漆喰塗の白壁で大変美しいものです。白壁を塗り込んだ土蔵造りの建物ですが、中央の門のところだけは縦横に組んだ木材や金物のいかめしい扉を素肌のままあらわしているのも長屋門の特色です。南の長屋の入口は建物の西面に設け、北の長屋の入口は門の内側に設けて玄関式台がついています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

てくてくロード

岡山市には、温暖な気候に育まれた自然が多く残り、吉備の国のもたらした古代の歴史的資源をはじめとする数々の歴史的、文化的遺産も多く、四季折々の風物も豊かです。しかし、車社会と呼ばれる今日では歩くことが少なくなり、これらの貴重な資源に触れる機会が減少し、歩くという健康的な活動から遠のいているといえます。このような状況を改善するため、岡山市では環境にやさしいまちづくりを進める一環として、ふるさと岡山をゆっくり歩き、身近な自然とのふれあいの場を提供する遊歩道の展開へ向けて「岡山市遊歩道ネットワーク（てくてくロード）」を策定しました。
遊歩道ネットワークが広く市民に活用され、ふるさと意識の醸成、歴史文化財への理解、さらに健康づくりに貢献することを願っております。

ルート内の主な公共施設

ＪＲ高島駅	TEL086-275-5333	岡山県立美術館	TEL086-225-4800
天満屋バスステーション	TEL086-231-7733	夢二郷土美術館	TEL086-271-1000
岡山電気軌道	TEL086-272-1811	岡山市立オリエント美術館	TEL086-232-3636
岡山中央警察署	TEL086-270-0110	岡山県立博物館	TEL086-272-1149
後楽園交番	TEL086-273-0941	後楽園事務所	TEL086-272-1148
高島交番	TEL086-275-1374	岡山中央郵便局	TEL0570-004-108
八幡駐在所	TEL086-275-2542	岡山高島団地郵便局	TEL086-275-2215
榊原病院	TEL086-225-7111	岡山天神郵便局	TEL086-224-2709
竜操整形外科病院	TEL086-273-1233		
岡山シンフォニーホール	TEL086-234-2001		

岡山市遊歩道ネットワーク
《てくてくロード》
岡山城ルートマップ

第4版:2024年(令和6年)3月発行
岡山市

お問い合わせ
岡山市都市整備局道路部道路計画課
TEL086-803-1695

あきカン・ゴミは持ち帰りましょう

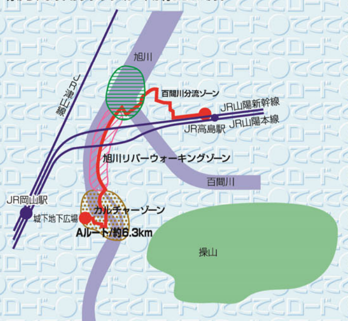
岡山市遊歩道ネットワーク てくてくロード④

岡山城、後楽園と百間川分流点を歩く

岡山城ルート

総延長距離 約10.6km

岡山城ルートは、岡山城、後楽園、岡山県立美術館、神社、寺など歴史・文化資源が数多く分布するカルチャーゾーン、岡山城から旭川沿いを北上し、旭川の水辺や緑などの自然を満喫する旭川リバーウォーキングゾーン、百間川分流点や百間川緑地を訪れ百間川の治水の歴史をたどる百間川分流ゾーンに大きく分けられます。おすすめのAルートは約6.3kmです。



岡山城、後楽園、岡山県立美術館をはじめとする歴史・文化資源
カルチャーゾーン

旭川の水辺の自然を散策する
旭川リバーウォーキングゾーン

百間川の治水の歴史をたどる
百間川分流ゾーン

岡山城
（国指定文化財・史跡）

F-7

・備前の国邑久から起こった宇喜多直家が、岡山の地・石山の城にいた金光宗高を亡ぼして城郭を拡張し入城したのは天正元年（1573）の秋でした。それまでは金川の松田氏に属する小城に過ぎなかったが、直家はこの城を本拠として城下町の経営に着手し、岡山の繁栄の基礎をつくりました。その子八郎秀家は、豊臣秀吉の殊遇を受け、直家の遺領である備前、美作のほかに備中の内の高梁川以東をも加え、57万石をこえる大領主となりました。ここにおいて秀吉の意見に従い、石山の東に本丸を移して城郭の拡張整備を行い、慶長2年（1597）、3層6階の天守閣が落成するにおよんで、城ぶしんは一段落しました。
これがこの地に豪壮きわまりない石垣と内堀を残す岡山城本丸であって、さらに西南の平地に二之丸、三之丸などが城域を画し、近世城下町の骨格ができあがったのです。宇喜多秀家は、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いに西軍の総大将となって出陣、一敗地に塗れて八丈島へ流されました。その後小早川秀秋が筑前の国・名島から移って岡山城主となりましたが、在城わずか2年余りで急死し、後継者がいなかったのでこの家は断絶しました。そのあと姫路城主池田輝政の二男、忠継に備前一国が与えられ岡山城にはいりました。
以後池田氏31万5千石の時代が続き明治維新に及びました。
（現地解説板より）

不明門

F-7

・表書院（藩庁）の南端から本殿（城主居館）へ上る石段の入口に設けた渡櫓門、天守閣のある本段全体の入口を固めた大形の城門でありますが、平素の出入は北端の渡り廊下を使用し、この門はほとんど閉ざされていたことから、「不明門」と呼ばれていました。明治の廃城後取り壊されましたが、昭和41年鉄筋コンクリートで再建されました。
（現地解説板より）